

											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	運動失調や記憶障害などを呈し、発症後14ヶ月で死亡した患者(39歳女性)の剖検を行ったところ、白質の広汎な変性と皮質および白質におけるPrP沈着を示す非定型孤発性CJDであった。小脳組織由来のPrPScを分子分析した結果、vCJDで見られるPrPSc 4型と似た新規のPrPScであることが示された。典型的vCJDとはEDTA存在下でのプロテアーゼ開裂部位が異なった。この患者のPRNPコドン129はホモバリンであった。	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2008; 39: 34	伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播性を調べるための実験的アプローチ法を要約し、実験における所見と自然発生するTSE(主にウシ海綿状脳症及びスクレイビー)およびコントロール方法との関連性を考察している。	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2008; 39: 33	1990年代にウシ海綿状脳症が英国で流行したことを受けて、ヒト及び動物において伝染性海綿状脳症を検出するために開発された様々な技法についての総説である。vCJDが輸血により感染しうることが明らかことから、vCJDの診断に関する血液検査の開発が最優先事項である。	
123	2008/04/25	80123	バイエル薬品	インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え) イットリウム(90Y)イブリツモマブ チウキセタン インジウム(111I)イブリツモマブ チウキセタン	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	有	無	無	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 208-215	2005年3月から2007年3月の間にオランダで約260万の血漿成分検体を対象として2種類のPCRアッセイを用いたパルボウイルスB19(B19V)のスクリーニング試験を実施した。その結果、232検体がB19V DNA値100万IU/ml以上であった。ヨーロッパ人ドナーにおいてはB19V遺伝子2型及び3型の保有率は極めて低いと考えられた。

											<p>パルボウィルス</p> <p>Vox Sanguinis 2007; 93: 216-222</p>	<p>ヒト血漿中のパルボウィルスB19(B19V)抗原を検出するEIAを開発した。本アッセイを用いて無症候性ドナーから採取したウィルス血症性の献血検体を検査したところ、低pHの状態ではB19V検出が大幅に増加した。また、B19抗原の検出はB19 IgMまたはIgG抗体存在下で影響を受けなかった。B19V IgMアッセイと併用することにより、急性B19感染の91%を検出した。B19V IgM検出法とB19V抗原EIAの併用はPCRに替わるB19V感染の有効な検出法となると思われる。</p>
											<p>パルボウィルス</p> <p>Transfusion 2007; 47: 1756-1764</p>	<p>米国の血液センター7施設において2000-2003年の期間に採取した5020名の供血者由来の保存血漿検体を高感度PCRスクリーニング法を用いてパルボウィルスB19 DNAについて検査した。B19 DNA陽性率は0.88%であった。DNA陽性検体の全てがIgG陽性で、23%がIgM陽性であった。IgM血清陽性率はDNA値と相関した。</p>
											<p>パルボウィルス</p> <p>Transfusion 2007; 47: 1765-1774</p>	<p>B19ウィルスの不活性化機構を調べた。熱または低PHIによるB19Vの不活性化はカプシド分解によるものではなく、感染性ビリオンがDNA枯渇カプシドへ変換することによって起こった。DNA枯渇カプシドは感染性はないが、標的細胞に接着することは可能であった。Parvoviridae科の他のウィルスとの比較試験の結果、被殻状態でのB19V DNAの著しい不安定性が明らかとなった。B19Vが不活化処理に抵抗性が低いのはこのためと考えられる。</p>
											<p>パルボウィルス</p> <p>Transfusion 2007; 47: 1775-1782</p>	<p>ドイツ及びオーストリアで2003-2006年の計280万の供血検体をパルボウィルスB19(B19V)についてミニプールNATによりスクリーニングした。その結果、10万 IU/ml以上は10万供血当たり12.7、10万 IU/ml未満は10万供血当たり261.5であった。10万 IU/ml未満のB19Vを含有する検体では全てに中和抗体(VP2)が検出された。10万 IU/ml未満のB19 DNA陽性血液製剤は高濃度の中和抗体を含有するため安全であると思われる。</p>

										<p>パルボウイルス</p> <p>Vox Sanguinis 2008; 94: 74-80</p>	<p>パルボウイルスB19(B19V)の新規の遺伝子型が発見されていることから、種々の遺伝子型のB19V検出及び定量結果を統一する方法を見いだす目的で国際ワーキンググループ会議が2007年3月に開催された。その会議の要旨である。会議では、B19V株の分類、種々の遺伝子型の有病率、分布、臨床的意義などが検討された。また、特性が十分に明らかになっている標準物質を用いたアッセイの標準化について合意が得られた。</p>
										<p>感染</p> <p>Transfusion 2007; 47: 2180-2184</p>	<p>カナダ血液サービスとHema-Quebecが主催した血漿分画製剤における病原体不活化(PI)に関するコンセンサス会議で得られた結論の考察と主な見解が報告されている。現在ヨーロッパで広く用いられているPIがカナダや米国で実現されようとしている。PIを推進することによって、現在の技術や供血者スクリーニング法では防ぐことができない輸血伝播感染症を減らすことができる。</p>
										<p>感染</p> <p>Transfusion 2007; 47: 2338-2347</p>	<p>2007年3月29-30日、カナダのトロントで行われた病原体不活化(PI)技術に関するコンセンサス会議の報告である。近年の検査技術の発達により、現状の輸血感染症リスクは非常に低く、PIを直ちに導入する事は推奨しない。しかし新興感染症のリスクは未知数であり、PIは予防手段として重要である。広範囲の病原体を不活化できる安全な方法が確立されれば実施すべきである。</p>
										<p>パルボウイルス</p> <p>Transfusion 2008; 48: 178-186</p>	<p>B19V IgG力価に関係したB19V中和の役割を検討するため、製造血漿プール1000以上について酵素免疫測定法による検査を実施した。血漿プールは平均33±9IU/mL(最小値11IU/mL)のB19V IgG力価を含有し、これらの11IU/mLのB19V IgGは、B19V遺伝子型1の感染性を4.6 log、遺伝子型2の感染性を3.9 log以上を中和した。このため、このようなプール由来の10%静注用免疫グロブリン製剤(IVIG)は、さらに高いB19V中和活性を含有することが明らかとなった。</p>

ID	採血日	書名	報告書名																
												日型肝炎	Vox Sanguinis 2008 Epub ahead of print	1999年に核酸増幅検査(NAT)によるHBV DNA検出のための最初のWHO国際標準品(サンプル1)が樹立された。同じ血漿から調整され、長期保存された別のDNA検体(サンプル2)およびサンプル1の力価および安定性を多施設で評価した。両サンプルの力価に有意差はなく、凍結乾燥により保存されたHBV DNAが極めて安定であることが確認された。これを受け、WHOは2006年10月にサンプル2を第2の国際標準品として樹立した。					
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを公平な迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。					
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	運動失調や記憶障害などを呈し、発症後14ヶ月で死亡した患者(39歳女性)の剖検を行ったところ、白質の広汎な変性と皮質および白質におけるPrP沈着を示す非定型孤発性CJDであった。小脳組織由来のPrPScを分子分析した結果、vCJDでみられるPrPSc 4型と似た新規のPrPScであることが示された。典型的vCJDとはEDTA存在下でのプロテアーゼ開裂部位が異なった。この患者のPRNPコドン129はホモバリンであった。					
124	2008/04/25	80124	ハイエル薬品	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	有	無	バルボウィルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 208-215	80123に同じ					
												バルボウィルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 216-222	80123に同じ					
												バルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	80123に同じ					

															パルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	80123に同じ
															パルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1775-1782	80123に同じ
															パルボウィルス	Vox Sanguinis 2008; 94: 74-80	80123に同じ
															感染	Transfusion 2007; 47: 2180-2184	80123に同じ
															感染	Transfusion 2007; 47: 2338-2347	80123に同じ
															パルボウィルス	Transfusion 2008; 48: 178-186	80123に同じ
															B型肝炎	Vox Sanguinis 2008 Epub ahead of print	80123に同じ
															リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80123に同じ
															異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80123に同じ
125	2008/04/25	80125	バイエル薬品	加熱人血漿たん白オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	有効成分製造工程	有	無	無	無	無	無	パルボウィルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 208-215	80123に同じ
															パルボウィルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 216-222	80123に同じ

											バルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	80123に同じ	
											バルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	80123に同じ	
											バルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1775-1782	80123に同じ	
											バルボウィルス	Vox Sanguinis 2008; 94: 74-80	80123に同じ	
											感染	Transfusion 2007; 47: 2180-2184	80123に同じ	
											感染	Transfusion 2007; 47: 2338-2347	80123に同じ	
											バルボウィルス	Transfusion 2008; 48: 178-186	80123に同じ	
											B型肝炎	Vox Sanguinis 2008 Epub ahead of print	80123に同じ	
											リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80123に同じ	
											異型クローンフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80123に同じ	
126	2008/04/25	80126	バイエル薬品	①人血清アルブミン ②オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	①有効成分 ②製造工程	有	有	無	バルボウィルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 208-215	80123に同じ
											バルボウィルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 216-222	80123に同じ	

												バルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	80123に同じ
												バルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	80123に同じ
												バルボウィルス	Transfusion 2007; 47: 1775-1782	80123に同じ
												バルボウィルス	Vox Sanguinis 2008; 94: 74-80	80123に同じ
												感染	Transfusion 2007; 47: 2180-2184	80123に同じ
												感染	Transfusion 2007; 47: 2338-2347	80123に同じ
												バルボウィルス	Transfusion 2008; 48: 178-186	80123に同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008 Epub ahead of print	80123に同じ
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80123に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80123に同じ
127	2008/04/25	80127	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ臓臓	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochem Biophys Res Commun 2007; 364: 796-800	80122に同じ

ID	承認日	承認番号	商品名	成分	剤形	用途	製造国	製造工程	有	無	無	病原体	参考文献	備考
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80122に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2008; 39: 34	80122に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2008; 39: 33	80122に同じ
128	2008/04/25	80128	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 208-215	80123に同じ
												パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 216-222	80123に同じ
												パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	80123に同じ
												パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	80123に同じ
												パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1775-1782	80123に同じ
												パルボウイルス	Vox Sanguinis 2008; 94: 74-80	80123に同じ
												感染	Transfusion 2007; 47: 2180-2184	80123に同じ
												感染	Transfusion 2007; 47: 2338-2347	80123に同じ



												バルボウイルス	Transfusion 2008; 48: 178-186	80123に同じ
												日型肝炎	Vox Sanguinis 2008 Epub ahead of print	80123に同じ
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80123に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80123に同じ
129	2008/04/25	80129	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
130	2008/04/25	80130	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	トリブシン	ブタの膵臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	E型肝炎	第55回日本ウイルス学会学術集会 2007年10月21-23日	日本国内13のブタ飼育施設におけるHEV保有状況について調査した。各施設につき10箇所の豚房より糞便を採取し、ウイルスゲノムの検出を行ったところ、HEVゲノム陽性率は70%であった。ウイルスは全てIII型およびIV型の遺伝子型に属していた。ひとつのIII型に属するサンプル(sw JB-E8)については全長の90%の配列情報が得られ、塩基レベルでのホモロジーはヒトから分離されたものに近いことが明らかとなった。
												日本脳炎	第39回日本小児感染症学会総会・学術集会 2007年11月9-11日	日本脳炎ウイルスに関する2006年度感染症流行予測調査では、ヒトで4自治体1197人、ブタで33自治体5349頭を対象に調査を行った。ヒトにおけるNT抗体価1:10以上の抗体保有状況は、1-3歳で10%未満、4歳で約20%、5歳で約80%であった。ブタでHI抗体が1頭以上確認された自治体は27あり、うち抗体保有率50%以上は17、更に12自治体では80%以上であった。2004年度と比較して抗体保有率が急増する年齢が年長側にシフトし、5歳未満に感受性者の蓄積が認められた。

131	2008/04/25	80131	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	DNase 1	ウシの脾臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方会総会、第54回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2007年10月26-27日	酪農業を営む50歳男性が、2007年4月初旬より、全身倦怠感、39度台の発熱、悪寒が出現し、腰背部痛が出現し徐々に激しくなったため4月10日に受診した。5月18日に入院し、血液培養から連鎖球菌が検出され、肺塞栓、脊椎炎を合併した感染性心内膜炎と診断された。ペニシリンとゲンタマイシン併用投与により軽快した。同菌はStreptococcus suis 2と同定され、牛の飼育から感染したと思われる。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌第66回日本公衆衛生学会総会 2007年10月24-26日	動物における腸管出血性大腸菌の保有状況を調査した。平成18年6月から19年2月に愛媛県内の屠殺場に搬入されたウシ143頭、動物愛護センターに收容されたイヌ71頭、ネコ67頭の直腸便を検査した結果、ウシでは82頭(57.3%)からヒト腸管出血性大腸菌(EHEC)が137株分離され、O157やO26など9種類の血清型が含まれていた。イヌとネコからはEHECは検出されなかった。
132	2008/04/25	80132	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	RNase A	ウシの脾臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方会総会、第54回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2007年10月26-27日	80131に同じ
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌第66回日本公衆衛生学会総会 2007年10月24-26日	80131に同じ
133	2008/04/25	80133	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血清	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方会総会、第54回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2007年10月26-27日	80131に同じ

												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第66回日本公衆衛生学会総会 2007年10月24-26日	80131に同じ
134	2008/04/25	80134	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方会総会、第54回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2007年10月26-27日	80131に同じ
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第66回日本公衆衛生学会総会 2007年10月24-26日	80131に同じ
135	2008/04/25	80135	CSLベering	フィブリノゲン加第XIII因子	アンチトロンビン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	有	無	バルボウィルス	J Gen Virol 2007; 88: 2162-2167	ヒト血漿プール中に新規のバルボウィルスPARV4とその変異株であるPARV5が存在することが最近示された。4株のPARV4と2株のPARV5のDNA配列を分析したところ、PARV5はPARV4と同様に2つのオープンリーディングフレームを持ち、PARV4とPARV5は92%近くのヌクレオチド相同性を示した。両者は密接な関係のあるジェノタイプであり、ジェノタイプ1と2(PRV5と呼ばれていたもの)から成るPARV4という1つのウィルス名を使用することを提案する。
												ウィルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	定期的に輸血を受けるサラセミア患者で、Torque Teno virus (TTV)の有無を調べたところ、2-20歳の患者の約10%(118名中12名)がTTV陰性であった。フェリチン、ASTおよびALT値はTTV陽性群より陰性群の方が低かった。TTV-HCV共感染群ではフェリチンおよびALT値がTTV単独感染群より高かった。輸血による高頻度かつ継続的なTTV感染はサラセミア患者における肝機能障害と関連することが示唆された。

												ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	Simian Foamy Virus (SFV)感染した男性7名を長期間追跡調査した。男性は非ヒト霊長類と接触する職業であった。男性の全ての末梢血単核球(PBMC)からプロウイルスDNAが検出され、口腔や尿生殖検体から検出されることもあった。長期間(中央値20年)の性的曝露にかかわらず妻たちは陰性であった。特異的な臨床症状は報告されなかった。限定的な追跡調査であるためSFV関連疾患やヒト-ヒト感染を特定できなかった。
												ウエストナイルウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	中央ヨーロッパにおけるウエストナイルウイルス(WNV)の潜在的脅威を調べた。ドイツ人供血者14437名由来の検体中0.03%が抗WNV陽性であった。ドイツ人9976名由来の検体をWNV NAT法を用いてWNV-RNAの有無を調べた結果、全て陰性であった。米国由来血漿プールではWNV-RNAがしばしば検出されたが、ヨーロッパやアジア由来のプールからは検出されなかった。また、血漿製剤製造過程のウイルス不活化によりWNVに関する安全性は保証されることが明らかとなった。
136	2008/04/25	80136	CSLベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	トロンピン末	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	バルボウィルス	J Gen Virol 2007; 88: 2162-2167	80135に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	80135に同じ
												ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	80135に同じ
												ウエストナイルウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	80135に同じ
137	2008/04/25	80137	CSLベリング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国	製造工程	無	無	有			

138	2008/04/25	80138	CSLベール ング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロ ブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	定期的に輸血を受けるサラセミア患者で、Torque Teno virus (TTV)の有無を調べたところ、2-20歳の患者の約10%(118名中12名)がTTV陰性であった。フェリチン、ASTおよびALT値はTTV陽性群より陰性群の方が低かった。TTV-HCV共感染群ではフェリチンおよびALT値がTTV単独感染群より高かった。輸血による高頻度かつ継続的なTTV感染はサラセミア患者における肝機能障害と相関することが示唆された。
												ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	Simian Foamy Virus (SFV)感染した男性7名を長期間追跡調査した。男性は非ヒト霊長類と接触する職業であった。男性の全ての末梢血単核球(PBMC)からプロウイルスDNAが検出され、口腔や尿生殖検体から検出されることもあった。長期間(中央値20年)の性的曝露にかかわらず妻たちは陰性であった。特異的な臨床症状は報告されなかった。限定的な追跡調査であるためSFV関連疾患やヒトヒト感染を特定できなかった。
												ウエストナイル ウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	中央ヨーロッパにおけるウエストナイルウイルス(WNV)の潜在的脅威を調べた。ドイツ人献血者14437名由来の検体中0.03%が抗WNV陽性であった。ドイツ人9976名由来の検体をWNV NAT法を用いてWNV-RNAの有無を調べた結果、全て陰性であった。米国由来血漿プールではWNV-RNAがしばしば検出されたが、ヨーロッパやアジア由来のプールからは検出されなかった。また、血漿製剤製造過程のウイルス不活化によりWNVに関する安全性は保証されることが明らかとなった。
139	2008/04/25	80139	CSLベール ング	フィブリノゲン加第XIII因子 人血液凝固第XIII因子	人血液凝固 第XIII因子	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	有効成分	有	有	無	バルボウィル ス	J Gen Virol 2007; 88: 2162-2167	80135に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2008; 80: 365-371	80135に同じ
												ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	80135に同じ
												ウエストナイル ウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	80135に同じ
140	2008/04/25	80140	CSLベール ング	フィブリノゲン加第XIII因子	フィブリノゲ ン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	有効成分	有	有	無	バルボウィル ス	J Gen Virol 2007; 88: 2162-2167	80135に同じ